

平成24年度

登録左官基幹技能者認定試験問題解答 (60分)

東海ブロック

受講番号		氏名	
------	--	----	--

1. 試験時間 60分

2. 問題数 25題 (四肢択一法)

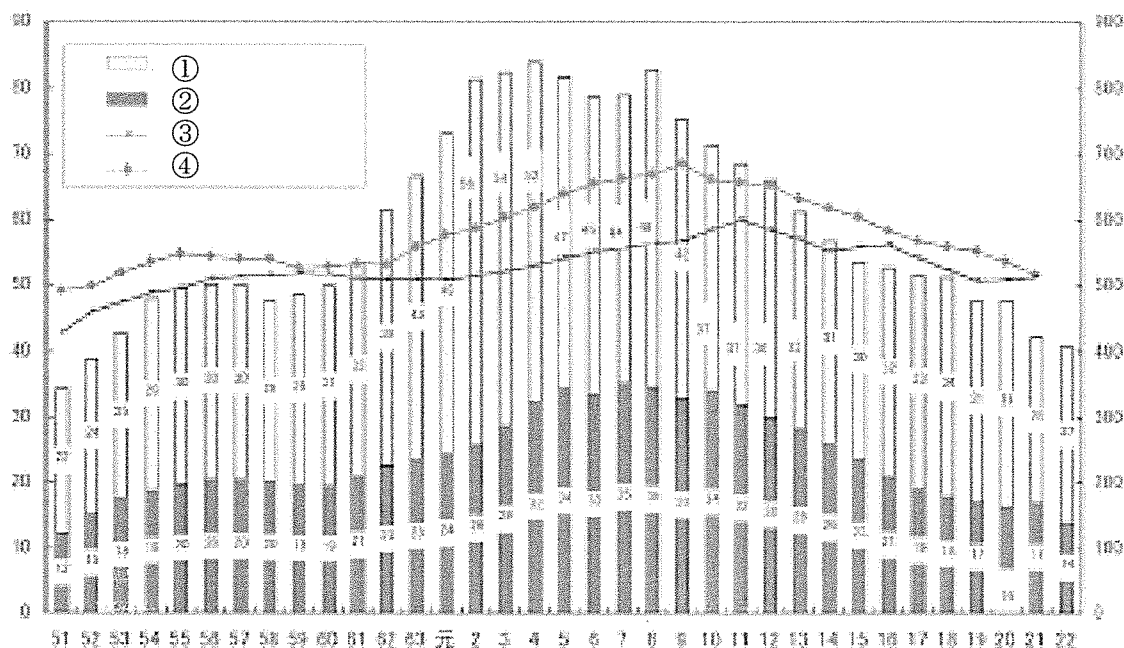
3. 注意事項

- (1) 試験開始の合図があるまで、この問題冊子はあけないでください。
- (2) 受講番号と氏名は、問題用紙および解答用紙のそれぞれの所定の欄に必ず記入してください。
- (3) 本冊子は、表紙を含めて10頁です。次に、問題数を確かめてください。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあつた場合には、黙って手を上げて申し出てください。
- (4) 試験開始の合図で始めてください。
- (5) 解答の方法は、次のとおりです。
 - ①正解と思うものを、1～4の番号の中から1つだけ選んで、解答用紙の解答欄にその番号を、黒の鉛筆またはシャープペンシルで記入してください。
 - ②解答を訂正する場合は、訂正する解答を、プラスチック消しゴムできれいに消した後、新しい解答を記入してください。
消し方が不十分な場合は、2つ以上解答したこととなり正解としません。
 - ③受験番号および選択した番号を正しく記入していないものは、採点せず全問題を0点とすることがあります。
- (6) 電子式卓上計算機、携帯電話の計算機能その他これと同等の機能を有するものは、使用してはいけません。
- (7) 試験中、質問があるときは黙って手を上げてください。ただし、試験問題の内容、漢字の読み方等に関する質問にはお答えできません。
- (8) 答案ができあがったら、監督者の指示に従って提出してください。ただし、試験開始30分以内の場合は、退出できないので、静かに着席しててください。

一般社団法人 日本左官業組合連合会

以下の問題をよく読み、解答用紙に正解番号を記入しなさい。

問題1 建設市場の現状を示した図の①～④の内容に関して、最も不適当なものはどれか。



1. ①は、民間投資額（兆円）を示している。
2. ②は、技能労働者数（万人）を示している。
3. ③は、許可業者数（千業者）を示している。
4. ④は、就業者数（万人）を示している。

問題2 登録基幹技能者の意義・役割に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 施工方法等の提案・調整を行うことができるもの
2. 適切な人員配置、作業方法、手順等の構成を行うことができるもの
3. 一般の技能者の施工に関する指示、指導に従うことができるもの
4. 前工程・後工程の連絡調整を行うことができるもの

問題3 登録基幹技能者に必要な資質に関する事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. リーダーとして大切な事は信頼であり、その信頼は約束を守るところから得られる。
2. 体が弱くても、知識を習得していれば、現場において強力なリーダーシップの発揮をすることができる。
3. 多くの理屈を言い立てるよりも、まず勇気を出して実行する方が説得力は大きい。
4. 仕事に信念を持ち、決断力を養ってこそ人はついてくる。

問題4 登録基幹技能者に求められる能力に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 環境管理の分野において、基本的な知識を有し、常にコスト意識と現場人員の適正配置の意識をもって現場内環境に努力することができる。
2. 不測の事態の発生に対応する修正工程の立案ができる。
3. 優れた技能に基づく十分な作業能力を有し、適宜一般の技能者に対する実地指導ができる的確な分析力と判断力を有し、客観的な観点から最良の結論を導き出すことができる。
4. 物事の重要度、緊急度が判断できる。

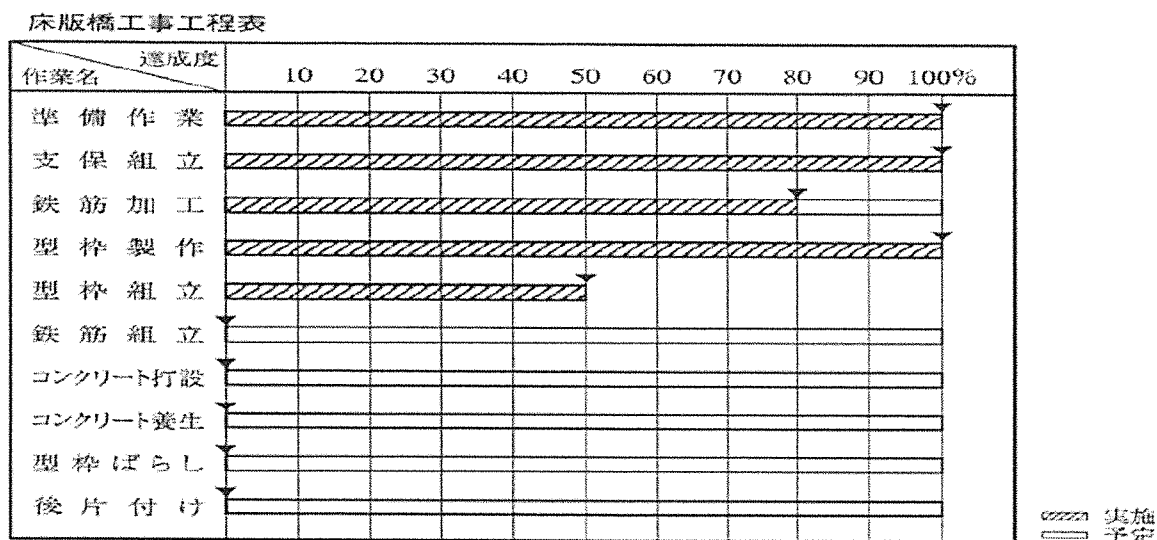
問題5 OJTの指導方法での自己啓発を促す事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 部下の自己啓発の意欲をうながすものであること。
2. 部下の成長する条件を考えること。
3. 知識の習得に重点を置き、集中講義を行うこと。
4. 目標は、仕事の難易度等を踏まえて中期・長期といった段階に分けて目標を決め、それぞれ個別のバックアップをすること。

問題6 OJTの指導方法のうち「挨拶の方法」に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 挨拶が仕事の始まりなので、常に健康的であること。
2. みんなに聞こえるように挨拶を行うこと。
3. 他人に迷惑がかからないように、相手に聞こえる範囲で挨拶を行うこと。
4. 挨拶は、人間関係の第一歩である。

問題7 次の工程表において、最も不適当なものはどれか。



- この工程表は、ガントチャート式工程表である。
- 現在の工事の進捗状況は、準備作業・支保組立・型枠製作の3つの作業は終了しており、鉄筋加工と型枠組立が行われている。
- 準備作業の後続作業は、支保組立である。
- 型枠組立の先行作業は、コンクリート打設である。

問題8 建設業法上違反となる行為、または違反となるおそれがある行為の事例に関して、最も不適当なものはどれか。

- 元請下請間で請負代金の額に関する合意が得られており、下請負人に工事を着手させ、工事の施工途中又は工事終了後に元請負人が下請負人との協議に応じて下請代金の額を決定し、その額で下請契約を締結した場合
- 元請負人が、自らの予算額のみを基準として、下請負人との協議を行うことなく、一方的に下請代金の額を決定し、その額で下請契約を締結した場合
- 元請負人が、合理的根拠がないにもかかわらず、下請負人による見積額を著しく下回る額で下請代金の額を一方的に決定し、その額で下請契約を締結した場合
- 元請負人が、下請負人に対して、複数の下請負人から提出された見積金額のうち最も低い額を一方的に下請代金の額として決定し、その額で下請契約を締結した場合

問題 9 建設工事標準下請契約約款において、現場代理人および主任技術者に関する事項に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 現場代理人は、この契約の履行に関し、工事現場に常駐し、その運営、取締りを行うほか、この約款に基づく下請負人の一切の権限（請負代金額の変更、請負代金の請求及び受領、工事関係者に関する措置請求並びにこの契約の解除に係るものを除く。）を行使する。
2. 元請負人は、前項の規定にかかわらず、現場代理人の工事現場における運営、取締り及び権限の行使に支障がなく、かつ、元請負人との連絡体制が確保されると認められた場合には、現場代理人について工事現場における常駐を要しないこととすることができる。
3. 主任技術者は工事現場における工事施工の技術上の管理をつかさどる。
4. 現場代理人と主任技術者とはこれを兼ねることができない。

問題 10 ブレーンストーミング(BS)の手法を用いて行う場合に関して、最も不適当なものはどれか。

1. BS では、アイデアをできるだけ多く出し、判断を後回しにする。
2. BS では、話し合っただけのアイデアをベストとするのではなく、多くのアイデアの中から最終的にひとつのアイデアを厳選するほうが良いとされている。
3. BS のルールでは、自由奔放に発想することが、非常識で無意味なアイデアを抽出することになると予想されるので注意する必要がある。
4. BS のルールでは、他のメンバーの批判をしない、アイデアの量を出す、便乗して発想することが重要だとされている。

問題 11 塗り壁の故障の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 下地の吸水大 — はく離・ひび割れ — 吸水調整材を原液にする。
2. 目地処理不足 — 付着不良 — 目地処理を充分行う。
3. さび止めしない鉄部 — さび発生（せっこうプラスター） — さび止めを行う。
4. ドカ付け — ひび割れ — つけ送りを行う。

問題 1 2 セメントモルタル塗り厚に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セメントモルタルつけ送り厚さが 25mm 以下でも、総塗り厚 35mm を超える場合は、はく落防止補強をする。
2. セメントモルタルの 1 回の塗り厚は、標準 6 mm、最大 9 mm で天井・ひさしは標準 4.5mm、最大 6mm とする。
3. 左官用軽量セメントモルタルの総塗り厚は、10mm 以下とする。
4. セメントモルタルの仕上厚は、天井・ひさしは 12mm 以下、その他は 30mm 以下とする。

問題 1 3 住宅瑕疵担保責任保険・設計施工基準の外壁の防水に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 通気構法の外壁に用いる防水紙は、JIS A 6111(透湿防水シート)に適合する透湿防水シートまたはこれと同等以上の透湿性能及び防水性能を有するものとする。
2. 防水紙の重ね合わせは、縦、横とも 90mm 以上とする。
3. 直張りの防水紙は、JIS A 6005(アスファルトルーフィングフェルト)に適合するアスファルトフェルト 430 または透湿防水シートとする。
4. 外壁開口部の周囲は、防水テープを用い防水紙を密着させることとする。

問題 1 4 ALC パネルの記載に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ALC パネル下地は、工場オートクレイブ（高温・高圧養生）した超軽量コンクリートパネルである。
2. ALC パネルは、左官塗りの下地として、厚手の左官塗りを行ってはならない。
3. ALC パネルジョイント部は、パネル取付け構法に応じた所定の位置や、出入隅部、他部材との取合い部にも伸縮目地を設ける。
4. ALC パネルの欠損部の補修には、反応硬化形で剛性・強度の大きな合成樹脂を用いる。

問題 1 5 仕上げ工事に関する記述に関して、最も不適当なものはどれか。

1. セルフレベリング材塗りでは、設計塗り厚は、20mm とし、5mm 未満とする。
2. 防水モルタルは、材料名のことと防水性のあるモルタルで塗り仕上げることである。
3. シーリングとは、水や空気を完全に密封することである。
4. モルタル防水の施工は、防水業者の許可が必要である。

問題 16 コンクリート表面の処理方法の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 高圧水洗浄 — 必要な粗さを設定でき、作業者によるばらつきが少なく、施工管理が比較的容易、下階への水対策を検討する必要がある。
2. 専用シートによる凹凸処理 — 吸水調整調材の役目をはたす。
3. ブラシ掛け — 作業は簡易だが、施工の管理が曖昧となりやすく水洗いを併用する。
4. サンダー掛け — 施工のバラつきが出やすいので見本などを作製し管理する。

問題 17 左官工事に要求される品質管理に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 設計上要求される耐火、防水、遮音、吸音、断熱、左官作業性などの性能を備えていること。
2. 例えば、真壁では、ちりがそろっている等の仕上げ面が平坦であること。
3. 色調平滑度または粗面度等の仕上げ面の状態が、壁全面に一様であること。
4. 各左官材料に対応した必要強度と適切な表面硬度を有すること。

問題 18 JIS A 6909（建築用仕上塗材）の仕上塗材の種類と呼び名の組み合わせに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 内装せっこう系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材 G
2. 外装合成樹脂エマルジョン系薄付け仕上塗材 — 外装薄塗材 E
3. 内装消石灰・ドロマイトプラスター系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材 C
4. 内装水溶性樹脂系薄付け仕上塗材 — 内装薄塗材 W

問題 19 3大管理機能とその関連性について、最も不適当なものはどれか。

1. 施工管理の目的である工事の品質、工期、及び経済性を確保するための品質管理、工程管理、原価管理を基本的に必要な3大管理機能という。
2. 工程と原価との関係は、施工を速めて数量を多くすると、単位数量当り原価は安くなっていくが、更に施工を速めて突貫作業をすると更に原価は安くなる。
3. 原価と品質の関係は悪い品質のものは安くできるが、良い品質のものは原価が高くなる。
4. 品質と工程の関係は、品質の良いものは一般的に時間が掛り、工程は遅くなり、施工を速めて突貫作業をすると品質は悪くなる。

問題 20 施工体制台帳等の整備に関して、最も不適当なものはどれか。

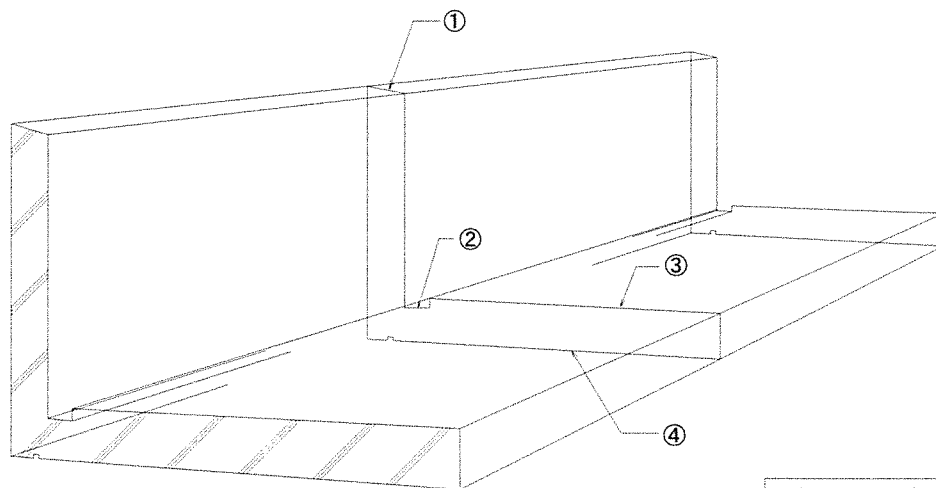
1. 発注者から直接工事を請け負った特定建設業者で3,500万円（建築一式工事の場合は4,500万円）以上の下請契約を締結したものは、施工体制台帳を作成する。
2. 発注者から直接工事を請け負った特定建設業者は当該建設工事の施工にあたる全ての下請負人を監督しつつ、工事全体の施工を管理する必要がある。
3. 発注者から要請があった場合、施工体制台帳を発注者に閲覧させなければならない。
4. 施工体系図は工事関係者が見やすい場所及び公衆が見やすい場所に掲げなければならない。

問題 21 建設工事の見積り等について、最も不適当なものはどれか。

1. 建設業者は、建設工事の請負契約を締結するに際して、工事の内容に応じ、工事の種類ごとに材料費、労務費その他の経費の内訳を明らかにして、建設工事の見積もりを行うよう務めなければならない。
2. 建設業者は、建設工事の注文者から請求があったときは、請負契約が成立するまでの間に、建設工事の見積書を提示しなければならない。
3. 見積りに際しては、工事内容を技術的に施工における問題点等を検討した上で、施工方法、プロセス等を具体的にイメージすることによって適正に行うことが可能となります。
4. 建設工事の見積りでは、それなりの技術力が必要ではあるが、工事の技術者が直接、見積りに参画することは少ない。

問題 2 2 片持ちスラブに発生する伸縮クラック対策について、最も不適当なものはどれか。

1. ①の手摺天端部分にも必ず、伸縮目地は必要である。
2. ②の溝内側は最終的に防水をすることが多く、伸縮目地を取り付ける必要は無い。
3. ③の部分はスラブ天端に長尺シート等を貼る場合が多く、貧調合のセメントモルタルで目地を埋める。コーキング等の防水処理をしないのが一般的である。
4. ④の上裏部分は漏水の心配がないため、コーキング等で埋める必要は無い。



片持ちスラブ姿図

問題 2 3 労働安全に関して、最も不適当なものはどれか。

1. 日本最初の労働保護法規としては、明治 44 年に工場法が公布され、新憲法の下で昭和 22 年に労働基準法、昭和は 47 年に労働基準が制定された。
2. 戦前の昭和 3 年には、第 1 回全国安全週間が実施され、戦時中も中断されることなく、現在に至るまで連綿として続けられている。
3. 近年の建設業における死傷者数は、全産業の 5%前後であり、他産業に比べて比較的低い割合を占めている。
4. 企業が社会的に存続するためには、(1)企業の利益、(2) 企業の社会的責任、(3) 従業員の幸福 の三要件を同時に満たすことが必要である。

問題 2 4 ハイน์リッヒの法則に関して、最も不適当なものはどれか。

1. ハイน์リッヒの法則は、イギリス人の技師であるハイン氏とリッヒ氏の 2 名が共同で、労働災害の事例を分析して導き出したものである。
2. ハイน์リッヒの法則は、1929 年に提唱された法則であり、比較的古い考えであるが今日でもその思想は安全管理の基礎となっている。
3. ハイน์リッヒの法則は、1 件の重大災害が発生する背景に 29 件の軽傷事故と 300 件のヒヤリ・ハットした傷害のない災害があるとされる。
4. ハイน์リッヒの法則は、災害が起きたら再発防止を行えば良いという、普段からの予防的な取り組みが重要であることを説いている。

問題 2 5 安全衛生の新しい流れに関して、最も不適当なものはどれか。

1. 平成 11 年に「労働安全衛生マネジメントに関する指針」が制定され、更に平成 18 年に労働安全衛生マネジメントに関する指針が公示された。
2. 労働安全衛生マネジメントに関する指針では計画の段階で、安全衛生に関する方針、危険性又は有害性等の調査、目標、計画が必要である。
3. MSDS 制度の MSDS (Material Safety Data Sheet の略) とは化学物質等安全データシートのことである。
4. リスクアセスメントとは職場における危険性又は有害性を見つけ出す、即ち特定することであり、このための手順を示せば良く、除去方法や制限策などは別なアセスメントになる。